NIE実践報告

1．タイトル：新聞を活用して「書く」力を身につける

2．学校名

兵庫県立柏原高等学校

3．実践者名（代表者名）

北川昌生

4．学年

２年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合的な学習の時間・１７人

6．単元（本時の学習課題）名

読み手を意識した文章を書く

7．目標（狙い）

新聞記事を読み、読み手に伝わりやすい文章を書くために必要な事項を学ぶ。
読み手を意識して、書き手の意図がわかりやすく伝わるように新聞を作成する。

8．評価の視点

伝わりやすい文章を書くための必要事項を踏まえて、新聞を作成できているか。
（生徒間での相互評価・教師による評価）

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

文章の構成、意見と根拠、見出しなど新聞作成に関わる学習　７時間
新聞の作成　２時間　　合計　９時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①新聞記事の比較読みを通して、記事作成の基本事項（５Ｗ１Hや構成など）や新聞による表現の違いを学ぶ。（３時間）
②元新聞記者の方の講義を通して、構成や見出しについて学ぶ。（１時間）
③記事の見出しを隠し、内容や写真から見出しを考える。（１時間）
④社説を参考にして、意見と根拠を明確にして意見文を書く。（１時間）
⑤漢詩を手がかりにして、文章の構成（起承転結）を学ぶ。（１時間）
⑥これまでの学習を踏まえて、学校新聞を作る。（２時間）

新聞は、朝日・神戸・毎日・読売・産経・日経の６紙とも用いた。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

読み手を意識して、文章を作成できるようになった。また、新聞を通して、社会の問題に目を向けることができた。

12．成果と課題

文章を書く際に、意見や根拠が明確になった。また、曖昧にしか考えていなかった文章構成も意識して書くことができるようになった。さらに、はじめは新聞に抵抗があった生徒たちも授業内で読んでいくことで、新聞を身近なものと捉えることができるようになった。課題は、授業で使うプリントやワークシートの準備に時間がかかってしまい、教師の負担となってしまうことが挙げられる。また、授業時数の関係で新聞作りで授業が終わってしまったが、小論文の作成など、より実践的な内容にも取り組むことができればよかった。